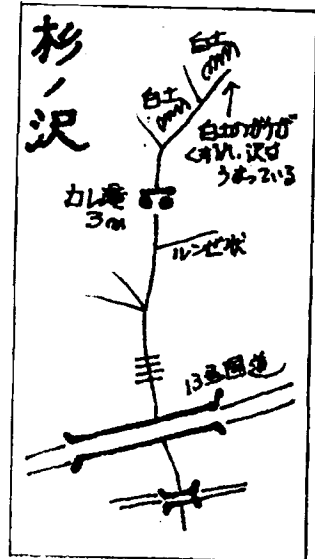
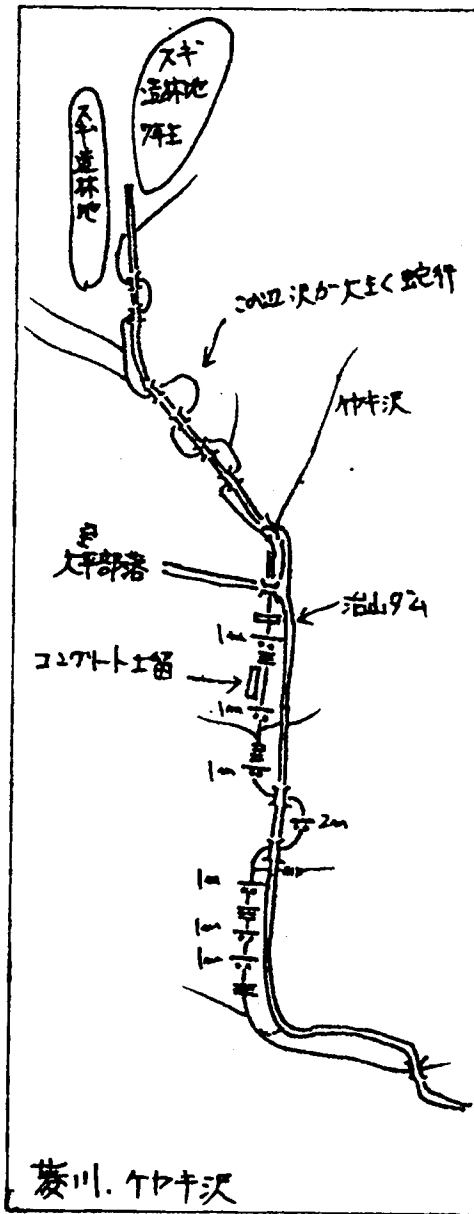


小川支流杉ノ沢

1985年5月19日

水の少ない出合を出発。すぐ上流には国道13号にかかる大きな橋があり、そのためか、沢はジュースの空き缶やゴミが多い。右岸には水を運ぶパイプが通っている。



1/2.5地図にはゴルジュの記号が記されているが、それはかなり上の方である。出合付近の兩岸は杉林となっている。

わずかのナメを過ぎると、左手より2本の支流が入る。この支流の出合を過ぎると、水もほんとうに少なくなる。右手からのルンゼ状の支流出合を過ぎると、3mのカレ滝が現われる。この沢唯一の滝である。

滝の上流は水もまったく流れておらず、戻ろうか進もうかと考えながら歩いていると、またチヨロチヨロと水が流れてくる。

左手より入る2本の支流出合を越えると、右岸の白い土の壁がくずれて沢を埋めている。ここで遊行を終え、左岸の踏跡をたどって杉ノ平の集落に出る。(.....)

[タイム] 出合(8:50)→沢終了(9:30)

菱川とケヤキ沢

1985年9月14日

Lノ

13号国道より分かれて、菱川ぞいの林道

に車を乗り入れる。左に林道が分かれる所にデボ。この沢は、道路と並行している沢なので、最初から期待はなし。もくもくと歩くのみである。それでも、1~2mの小滝がポツリポツリと出てくる。

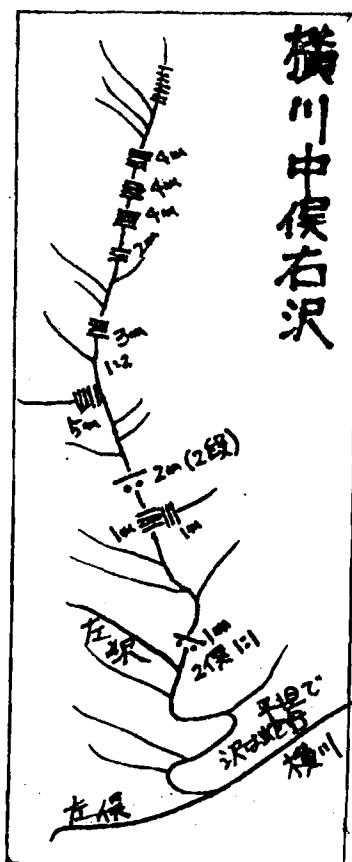
沢に入って20分、道路が二俣になる。左に行くと、大平部落への道路となる。この先すぐに治山ダムがある。治山ダムとしては、長い堰堤である。すぐ脇で、釣糸をたらしめている人がいた。

まもなく沢は二俣となる。入谷前は、菱川右俣・左俣として調査対象としていたのだが、沢にかかる橋に「ケヤキ沢橋」という橋歴板があったので、菱川右俣はケヤキ沢とよばれていることを知る。

ケヤキ沢を行ってみる。行けども行けども藪沢。なにもない。沢の流れも細くなった所で引き返し、再度菱川の遡行にかかる。

橋が多く、左にいたり右にいたり。記録が大変である。終了地点は、源頭という感はなく、スギの造林地で、丘陵という感じであった。()

[タイム] 遡行開始(13:55)→ケヤキ沢橋(14:20)→ケヤキ沢終了(14:40)→ケヤキ沢橋(14:55)→菱川終了(15:20)



横川中俣右沢

1985年10月20日

L:

13号国道から横川ぞいの道路に車を進める。しばらく行くと、民家が2~3戸ある。今は廃村となつてしまった東横川部落の名残である。そこから先に進むと、林道のゲートとなる。少し手前に車をデボして林道を歩くことにする。

林道を歩くこと30分で、横川の出合に着く。沢ぞいにこのあたりにも釣人の足跡が見られる。

右俣出合を過ぎたあたりからゴルジュとなる。捲き道があると聞いてきたのだが、みつからない。俣りにわかったことであるが、捲き道は、かなり手前から分かれて、右岸のとんでもない高い場所を通過していた。

ゴルジュを突破するには、濡れるしかない。季